

令和3年12月17日

国土交通省 中国地方整備局長

多田 智 殿

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会

委員長 関根雅彦

島地川ダム定期報告書の総括について

中国地方ダム等管理フォローアップ委員会は令和3年12月17日に島地川ダムに関する定期報告の審議を行い、下記10名の意見により本フォローアップ委員会としての総括をとりまとめたので提出する。

記

| 氏名 | 役職 | 専門分野等 |
|---------------|--------------------------------------|--------|
| 井上 たくや 卓也 | 広島大学大学院 先進理工系科学研究科 准教授 | 河川工学 |
| 海野 てつや 徹也 | 広島大学大学院 統合生命科学研究科 教授 | 魚類 |
| 清家 やすし 泰 | 島根大学 研究・学術情報本部 エスチュアリー研究センター 客員教授 | 水質 |
| 関根 まさひこ 雅彦 | 山口大学大学院 創成科学研究科 教授 | 水質 |
| 田原 ひろし 博 | 日本野鳥の会 島根県支部 支部長 | 動物（鳥類） |
| 鶴崎 のぶお 展巨 | 鳥取大学 名誉教授 | 動物 |
| 中越 のぶかず 信和 | 広島大学 名誉教授 | 植物 |
| 三輪 ひろし 浩 | 鳥取大学 工学部 教授 | 河川工学 |
| 山田 ともこ 知子 | 比治山大学 現代文化学部 教授 | 社会環境 |
| 吉田 けいすけ 圭介 | 岡山大学大学院 環境生命科学研究科 准教授 | 河川工学 |

- 「第 32 回中国地方ダム等管理フォローアップ委員会」において、「島地川ダム定期報告書」の審議を行った。
- 審議は、「防災操作、利水補給、堆砂、水質、生物、水源地域動態」の 6 項目について、平成 28 年度から令和 2 年度までの期間を主な対象として行った。

各項目に関する審議結果は以下の通りである。

1. 「防災操作」

評価期間である平成 28 年度から令和 2 年度の間、計 11 回の洪水が発生した。これらに対して必要な操作を行い、所期の機能を発揮している。今後も気候変動の影響によって、豪雨の頻発・激甚化が懸念されており、ダムの効果を最大限発揮できるよう、引き続き事前放流等の適切な運用を含む防災操作を行われたい。

2. 「利水補給」

所期の機能を発揮し、受益地に貢献している。今後もダムを適切に管理・運用し、ダム下流域への利水補給を行われたい。

3. 「堆砂」

管理上の問題は生じていないが、近年、堆砂量に変動傾向が見られる。当面の間、堆砂測量の頻度を見直すとともに、堆砂測量の方法や結果について必要な分析を実施し、堆砂量の変動要因について把握されたい。

4. 「水質」

利水上の影響は生じていないが、水質保全対策設備の稼働状況や栄養塩の流入状況の変化などにより水質障害が生じる可能性があることも考えられる。これらを考慮し、ダムの管理・運用に必要な水質や底質の調査を継続するとともに、巡視などの日常管理を通じて水質状況の把握を継続的に取り組まれたい。

なお、高濃度酸素溶解装置については、濁水時の運用対応などにより水質への影響を低減し、効果を発揮している。本装置は、安定的・連続的な稼働が求められるので、装置の稼働負荷低減に資する運用方法と計画的な維持管理方法を検討し、利水上の影響が生じないような取り組みを行われたい。

また、アオコ対策については、必要な調査を行いアオコの発生状況を踏まえながら装置の運転時期や運転方法の検討を行われたい。

5. 「生物」

生物の生息・生育環境に大きな変化は見られていないが、今後も調査を継続し生物の生息・生育環境の把握に努められたい。

また、保全対策については、河川水辺の国勢調査等の調査に加え、日常的な維持管理を通じて効果の継続的な発現に取り組まれたい。

6. 「水源地域動態」

島地川ダムが果たす治水や利水の役割について、ダム下流域への貢献状況が地域に理解されるような「ダム管理の見える化」を促進されたい。

また、地域とダム管理者が立案した新たな行動計画については新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえながら、定期的にダム上下流の地域とダム管理者がコミュニケーションをとり、計画的に実践されたい。

以上